

# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



## 衣裳着人形

さ く ま のる  
佐 久 間 實  
(号・珖 甫)

(昭和62年度作品)

16ミリ映画・ビデオ  
カラー・16分

### プロフィール

住所、荒川区東尾久5-33-8。

明治39年(1906)、千葉県生れ。

昭和60年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定。

大正12年(1923)上京し、彫金・日本画を学び、後に衣裳着付専門の人形師、松崎義雄氏に師事し、技術を修得した。

昭和2年に独立し、独自の研究を続けた。昭和11年のパリ万国博覧会、昭和13年のベルリンでの第1回国際手工業博覧会に、それぞれ日本代表として衣裳着人形を出品した。国内では昭和16年、帝展(現在の日展)で初入選以来、各美術展に入選受賞する。

昭和17年、鹿児島寿藏・野口光彦・堀柳砥らと人形芸術作家協会を設立し、常任評議員となる。昭和30年、人形研究友の会を設立し、後に常任理事となる。昭和54年より「新作博多人形展」「東京都伝統工芸品(人形部門)」の審査員となる。昭和56年には日本人形協会より功労賞を受賞した。

保持者の人形に果たした功績は多大なものであり、その優れた技術は、区にとって大変貴重である。

企画 東京都荒川区教育委員会 ・ 製作 毎日映画社

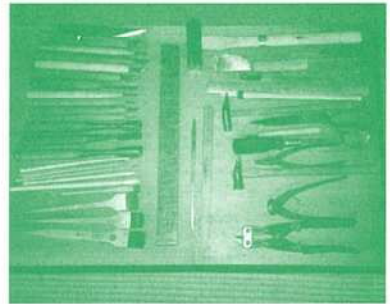
## 用具・工具

鋏、針金、小刀、鋸、きり、ペンチ、のり、糸、針、ミシン（衣裳を縫う）、アイロンなど。

## 工程 — 新歌舞伎十八番「鏡獅子」の場合 —

「衣裳着人形」の構想を練り、頭を注文し、衣裳の生地を決める。

- (1) 出来上った頭（及川映峰さんの作品）をもとにして、桐材から胴の形を彫りあげる。
- (2) 胴に取りつける脚部をつなぎ、足先には白布で足袋をはかせる。
- (3) 人形のポーズや動きに大きな役割を果たす針金を1本1本慎重に長さを測りながら切る。
- (4) 左右のバランスを考えながら胴体に足を取りつける。
- (5) 舞台の「鏡獅子」の姿を連想しながら、脚部を折りまげ、ポーズを決める。
- (6) 紙に木のクズ、モクゲを巻いて腕を作る。
- (7) 腕を取りつけながら、手首がきちんと袖口におさまるように長さを決めていく。
- (8) えりを重ねながら巻いていく。
- (9) 人形の骨格づくりが終ると、衣裳の生地選びをする。
- (10) 布地に安定感を与えるため、紙で裏貼りをし、裁断していく。
- (11) ハカマにあたる「半切」の仕立てをする。
- (12) 袖口は紙の芯に布地を袋貼りして重ね、のりづけする。
- (13) 「小袖」、「袷法被」、「半切」、「腰帯」と「前垂」などの衣裳ができあがると「着せつけ」がはじまる。
- (14) 小袖を着せ、えりの部分にのりをつけて着せ込む。
- (15) モクゲを着物の中に入れ、ふくらみをつける。
- (16) 半切をはかせ、袷法被を着せる。
- (17) 人形の手首を調整する。
- (18) 人形の振りつけをする。
- (19) 頭をつける。
- (20) 全体のバランスを考えて仕上げる。



(完成した人形)

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16mm映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16mm映画〉の貸出には団体登録と16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

### 〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課……………3802-3111（内線3358）  
荒川図書館……………3891-4349      町屋図書館……………3892-9821  
尾久図書館……………3800-5821      日暮里図書館……………3803-1645  
南千住図書館……………3807-7114